

みすていっく☆ばる〜ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

【第7話（ヒント編 2）】

お城から駆け出しながらミスティアは考えていました。

ミスティア

（私の勘だけど、お城のみんなって、何か私に隠し事をしてる気がするのよね）

そのまま城を出てしばらく進んでいると、道の向こう側から又三郎が歩いてくるのが見えました。

ミスティア

「あっ、又三郎のおに一さん！ ちょうどよかった！ 実はね……！」

又三郎

「それは凄いですね。商人としてそのような貴重な品物をこの目で見てみたいものです…え？ ミスティアさんが今お持ちなのですか。ほう、これがオーブですか。ふむふむ。おや？」

ミスティア

「どうかしたの？」

又三郎

「いえ、たいしたことではありませんが。このオーブ、ミスティアさんはゴールドオーブと呼んでますよね。念のためお伝えしておきますと、材質は、金ではありません。樹脂が固まったコハクという宝石ですね。色合いも本物の金とは少し違います。細かなことすみません。あ、でもとてもきれいなオーブであることには変わりませんよ」

ミスティア

「ふーん。何でできてるかなんて、今まで特に気にしてなかったけど……。あ、待って、じゃあシルバーオーブもホントは銀じゃないの？」

又三郎

「ちょっと貸していただけますか。ほうほう、これには、本物の銀が使われていますね」

ミスティア

「どういうことかしら？ オーブを作った誰かさんが、金は高くて買えなかったとか？」

又三郎

「はは、ミスティアさんは想像力が豊かですね。さて、すみませんが、次の取引の時間が近いものでして。今日はこれにて」

そう言って、又三郎はお城のほうへ歩き去っていきました。

みすていく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

ミスティア

(今日からこれはコハクオーブって呼ぼっと)